

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600224	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成27年10月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 御園		
所在地	(〒252-0317) 神奈川県相模原市南区御園 5-10-24		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和元年9月12日	評価結果 市町村受理日	令和1年12月27日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 地域とのふれ合い、交流に力を入れていて、事業所目標にしている。 ①夏祭りや文化祭等の自治会主催の行事に参加して地域交流を図っている。 ②地域の方のボランティアの受け入れ、子供会との交流、ホーム見学会や入居相談などの開催により、地域の方の認知症理解を図っている。</p> <p>2. ホームの庭や畑で収穫した果樹（ぶどう・梅・りんご・さくらんぼ）や夏野菜をおやつや食事に取り入れている。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和元年9月20日	評価機関 評価決定日	令和1年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 ニチイケアセンター御園は、小田急線相模大野駅北口からバスで7分、最寄バス停から徒歩1分ほどの閑静な住宅街にある。集合住宅と戸建て住宅に囲まれた鉄骨2階建ての建物は、ツートンカラーの外壁が印象的で、目を引く。1階には20平米ほどのテラスがあり、9月恒例のバーベキュー大会や日常の利用者のティータイム、日光浴などに使用されている。また敷地内に畑があり、そこで収穫されたトマト、キュウリ、ナスなどの夏野菜は食卓を賑わしている。また、ブドウ、りんご、サクランボなどの果実も栽培されている。</p> <p>【地域交流の充実と地域に根付いた活動の推進】 事業所理念の一つに「地域の方とのふれあいを大切にする」を掲げ、利用者職員は地域の一員として、地域住民と交流している。御園南自治会主催の御園夏まつりでは、毎年模擬店を担当し、利用者職員は地域住民と親しく触れ合っている。今年度は、疑似金魚すくい店を出店した。10月末から文化の日にかけて開催される御園南文化祭には、当事業所の作品コーナーを設けてもらい、利用者の習字やぬり絵、利用者職員が協同で作った季節のディスプレイなどを出展している。またこの場合は、事業所の活動の地域への発信機会にもなっている。ハロウィンでは子供会の子供たちが事業所に立ち寄り、利用者とお菓子の交換などを行っている。また月1度開催される事業所の見学会は、認知症ケアに関する地域住民の相談の場ともなっている。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイけあせんた一御園
ユニット名	1階大地

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター 御園
ユニット名	2階 虹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルーム、休憩室などに張り出しており、行事や散歩の際には実践している。	「挨拶を習慣にしよう」、「お客様（利用者）・地域の方とのふれあいを大切にする」を事業所理念とし、職員は理念を共有し、利用者の地域生活の継続を支援している。散歩の際などに利用者と職員が地域住民と気楽に挨拶を交わす関係を築いている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事や地域行事に参加する事で交流が来ている。日々の散歩や夏祭り、文化祭等の交流の機会がある。	自治会に加入し、夏祭りや文化祭などに参加している。夏祭りでは子供みこしが立ち寄ってくれる。またハロウィンでは、子供会の子供たちが50人ほど来訪する。習字講師のボランティアが月2回来訪している。バーベキュー大会やクリスマス会では家族のほか、自治会関係者、民生委員も招待している。近隣の住民から切り花の差し入れがある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加、子ども会との交流、ボランティアの受け入れ、ホーム見学会等を通して、認知症の理解、事業所の理解に繋げている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で色々な意見や提案を頂きサービス向上に活かす様に努めている。特に民生委員さんに理解を頂き地域行事への参加がしやすいように協力も頂いている。また、ご家族様にも状況をお伝えする事で理解を頂いている。	利用者家族、民生委員、地域包括支援センター職員、自治会長参加の下、2ヶ月に1度開催している。事業所からは活動状況、職員の異動、事故の状況などが説明されている。地域包括支援センター職員からは、地域での活動状況が報告されている。運営推進会議終了後に、出席した家族と事業所の懇談会を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市の職員に代わり地域包括の職員が参加して頂いている。地域の現状や取組みなど知らせてもらう機会となっている。	運営推進会議の議事録を相模原市南保健福祉センターに持参し担当者に事業所の現状報告をしている。また要介護認定更新申請代行の機会に、同センターに出向き、意見交換を行っている。相模原市高齢政策課からは研修の案内をもらい、都合がつく限り参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修や毎月の身体拘束廃止委員会により職員の理解を深め拘束をしない工夫に取り組み、日々のケアに活かしている。	運営規程や重要事項説明書に、身体拘束は原則行わないことを明記し実践している。拘束が必要になった場合に備え「説明と同意書」、「拘束解除に向けての検討記録」などの書類を整備している。年2回、身体拘束・虐待防止の研修を実施している。ユニットの出入り口は施錠していないが、ふいに外出する利用者がいるため、玄関は施錠している。出たいそぶりの利用者に対しては、付き添って外に出るなどの対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修項目にも入っており会社からも年に2回は研修を義務づけられている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様で成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるため、後見人様と係る機会があります。独居生活の高齢者や親族も高齢であるケースが増えている現況をスタッフも承知している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には読み合わせを行い、疑問点があれば質問して頂いている。料金改定などについては家族会などにて説明し理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議の時、また、会社としても、顧客満足度サービスのアンケートを実施しており意見を伺う機会をつくらせている。必要な事は改善している。	運営推進会議後の懇談会やバーベキュー大会、クリスマス会などのイベントの機会に家族の意見、要望を聴取している。また普段の家族の来所時にも、要望も引き出すようにしている。年に1度の法人による顧客満足度調査結果のフィードバックを受けている。目安箱（意見箱）を設置している。家族の要望は利用者個々に対するものがほとんどである。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	親睦会を行ったり、ミーティングや行事などの話し合いの機会もあり、日頃から話しやすい環境を心がけている。	防災委員会、献立委員会を始めとする4つの委員会があり、職員が自主的に運営している。そこで検討された内容は防災訓練、食事メニューなどに反映されている。毎月の業務ミーティングなどで、職員の要望、意見を聞いているが、水分補給などの利用者個々のケアに対する意見が中心である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度による時給があがることや、社員への登用や有期雇用から希望者へは無期雇用への変更を実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ニチイ学館の教育課での実務者研修や介護福祉士養成などの研修がある。又、拠点での研修も年間計画を立てて実施している。無資格者も働きながら資格を取ることができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市主催の研修の他、市内の同サービスの協議会や法人の研修などに参加する機会がある。見学や研修参加を通じ、サービスの質の向上に繋げている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人との面接を行なっている。会話の中から本人の思いを引き出し、不安がなく入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が現在困っている事や入居に関して不安に感じていることを伺い、安心して頂けるように話をする機会や電話での連絡を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様から得た情報やご本人の生活暦、これまでに受けたサービス等を情報共有し、職員間で支援内容を決定している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と一緒にこなす家事を通じての自立支援の中で、職員のお手伝いをして下さる事により、暮らしを共にする関係を築く事が出来ている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム行事への参加協力を頂くことや運営推進会議への参加、散歩や外出への付き添いなどをして頂くことにより、お互いに協力関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にご家族様との写真を飾ったり、知人や親戚の方の来訪を積極的に受け入れている。お茶をお出しして楽しい時間を過ごして頂けるように努めている。また、ご家族様との外出も勧められている。	友人や遠方の親戚の来訪を受けた際は、居室に通し、お茶を出して歓迎している。家族との外出を積極的に働きかけ、墓参りや外食に出かけてもらっている。電話の取次ぎや年賀状を出す支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事の手伝い(食器拭きや洗濯たたみ)レクなどを一緒に行う事で関わりあう機会をつくり、コミュニケーションを考えて食事席を決めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰の方へは継続して医療の受診が行われるように医療機関への依頼や他の事業所への入所後も訪問マッサージなどが継続して受けられるように連携体制を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時面接、ご家族様からの情報を元に趣味や嗜好品などを把握し、なるべく本人の希望が叶えられ、楽しく生活出来るように努めている。	利用者や家族から聴取したアセスメントを重視し、好みのレクリエーションなどを支援している。意向を表すことが困難な利用者については、声かけの反応から読み取るなど意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様やご本人から伺ったり紹介先の担当ケアマネージャーからの情報などにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのかたに合った個別の対応が出来るように、体調管理、出来る事などを把握しサービスの提供をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様からの要望を伺い、ご本人の現状維持、または機能の向上を目指しカンファレンスを開催し、介護に関わっている職員の意見も聞き、ご本人がより良く暮せるように介護計画を作成している。	3ヶ月毎にモニタリングを実施し、短期目標は6ヶ月、長期目標は1年毎に見直している。利用者の状況に変化が生じた場合はその都度介護計画書を見直している。診療情報、家族の意向、職員意見などを取り入れた介護計画としている。個人ファイルは、特別なイニシャルで管理されており、プライバシーに配慮されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や全体申し送り事項の管理日誌の他往診記録等による記録と日々の申し送りによって情報の共有をしている。個々の変化に気づきを記録に残す事により介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居には踏み切れないご家族様には通所介護の利用も出来る用に共用型通所介護も実施している。（現在まだ利用がない）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの方との交流、地域の行事への参加(夏祭りや文化祭)をする事で入居者様には地域に暮している事を実感してもらい、地域からも理解をいただけるように努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の通院付き添いの負担がなく健康管理が出来るように医療連携制度によって、看護師と訪問医との医療連携体制を実施している。専門医である必要がある場合はご家族様に付き添い依頼している。	協力病院の内科医の往診が、月2回行われている。診療情報は事業所と家族に直接、送付されている。訪問看護ステーションの看護師が週1回来訪し、健康管理を行っている。同病院、ステーション共に24時間の連絡体制がある。訪問歯科医が毎週来訪している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週一回の訪問看護を受けている。介護職員では関われない事の対応をお願いしている。又入居者様の状態変化などについての相談をすると往診医との連携による指示を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人への面会時に病院看護師や相談員に状況を伺えることにより退院後にスムーズに元の生活に戻れるような環境作りや体制を整える事ができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族様の意思を尊重し提携医や訪問看護との連携により可能な限りホームでの終末ケアの実施に取り組んでいる。	入居契約時に「重度化した場合における対応に関する指針」を説明し、利用者、家族に同意を得ている。毎年2例ほどの看取りがある。医師が終末期と判断した場合は、医師より特別介護指示書の提供を受け、介護計画書を看取り介護計画書に変更して対応している。	ターミナルケアに関する豊富な経験を持つ職員もいますが、新人職員も多く入職しています。ターミナルケアに対する職員研修に取り組まれることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	会社マニュアルに沿って対応している。相模原市の開催する研修などにも参加しているが、多くの職員が慌てずに対応できるように研修参加を促して行く。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施していて消防署員からもアドバイスを受けている。訓練を地域の方と一緒に実施する事はあったが、入居者様の重度化と共に困難になってきている。	年2回の防災訓練を行っている。内1回は消防署の立会いがある。また、夜間想定での訓練も実施している。地域の防災会議に出席している。非常食、飲料水、オムツ、ウェットティッシュ、などの備蓄がある。また利用者毎の衣類が準備されている。	運営推進会議などを通じ、事業所防災訓練への地域住民の参加を呼びかけ、地域住民協力の下で、防災訓練が実施されることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を傷つけないように声かけに気をつけるようにしている。人生の先輩である事を介護者が忘れずに対応することが必要と思う。	人生の先輩として、尊敬と敬意の念を持って利用者に接している。管理者やユニットリーダーは、職員の不適切な声かけには、その都度注意している。接遇研修を毎年実施している。個人記録は特殊なイニシャルで記載し、第三者には分からないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食の際に何を食べたいのかをメニューを見て貰い選んで頂くことを行なっている。レクの際には歌集の中から唄いたい歌を選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間がゆっくりのペースの方には職員の都合で下膳してしまわないように極力ご本人のペースで召し上がって頂いている。お部屋で過ごしたい方や昼寝をしたい方にも希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは本人の希望を伺い一緒に決めている。化粧をしたい方にはお化粧道具の準備を行い支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月のお誕生会にはお誕生者の好きな献立にしている。献立は職員が立てているので入居者様の好みに合わせたものも取り入れている。調理の下ごしらえのもやしのヒゲ根取りなどは皆様協力して下さる。食器洗いや食器拭き収納もお願いしている。	献立は「献立委員会」で作成し、それを基に食材を業者へ委託している。手伝いが出来る利用者は、もやしのひげ取り、食器拭き、お盆拭きなどを行っている。利用者の状態に合わせ、刻みやミキサー食が提供されている。誕生会では昼食を本人の好きなものにし、おやつ時間にケーキでお祝いをしている。2ヶ月に1度ほどタクシーを利用し外食を楽しんでいる。バーベキュー大会やクリスマス会では家族と一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量については毎日の記録に残している。摂り難い方には好みの物を提供するなど工夫している。栄養摂取については不足しやすい方は提携医と相談し高カロリーの補助飲料などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけや介助等、個々の状態にに合わせ行っている。夕食後から朝までの間は義歯をお預かりして消毒洗浄している。提携している訪問歯科の往診時にアドバイスを受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、声かけトイレ誘導を実施している。夜間は安眠重視であるが、尿漏れがないように、トイレへの誘導を行なっている。介護記録から個々の排泄パターンを把握しトイレでの排泄が行なえるように支援している。	トイレでの排泄を基本とし、利用者個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を実施している。夜間、睡眠を優先しなければならぬ利用者は、吸水量の多いパッドを使用している。オムツを使用している利用者は、就寝中2回のオムツ交換をするなど、清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヤクルトを飲んで頂き便秘の予防を行なっている。水分摂取量が不足しないように心がけている。困難な場合は医療にて服薬コントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間帯は人員の都合により決まってしまうが、無理のない声かけで拒否の方へも対応している。入浴しない日には、清潔保持の為、足浴や清拭を実施している。季節によって、菖蒲湯やゆず湯などのイベント湯も実施している。	週2回、午後の時間帯での入浴を原則としているが、時間帯などは制限せず、午前中に入浴する利用者もいる。お湯は都度取りかえている。季節の菖蒲湯、柚子湯なども楽しんでいる。入浴を好まない利用者には、声かけのタイミングをはかり、まず浴室に行ってもらうところから始めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床や就寝、午睡等、個々の生活リズムや体調に合わせて支援を行なっている。室内温度の調整や寝具などの乾燥(布団干し)を行い気持ちよく睡眠が取れるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成して薬の効能や副作用が分かるようにしている。訪問診療の際には立会い、薬の変更や追加に対しての情報共有ができるよう申し送りしている。薬剤師とも情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考にし、得意な事や趣味などが継続できるように支援している。家事の手伝いや塗り絵、折り紙、習字などを楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はできるだけ順番に散歩に出掛けている。タクシーを利用して近隣のスーパーでの買い物支援やファミレス等におやつや外食に出掛けていたりしている。しかし車椅子の方の外出は難しくホームの近隣への散歩になっている。	天候が良い日は、毎日散歩に出かけている。車いすの利用者も外気に触れることを心掛け、事業所周りの散歩や、テラスでの日光浴を楽しんでいる。タクシーを利用した買い物や外食も利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に現金所持はしていないがおよつもの購入時や夏祭りでの模擬店での買い物等は、個々の状況に合わせて職員付き添いの元で支払ってもらう事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎをしている。本人希望や状況により電話を掛けてもらっている。年賀状は個々に合わせ職員が支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるように。庭や畑の花や果樹を飾っている。食堂兼居間の室温は適温にするように配慮している。	リビングは採光に優れており明るい。廊下、階段、リビングの壁には、行事、外出、ボランティア来所時の写真や習字の作品、自治会の文化祭に出展した作品などが飾られており、利用者の憩いの空間となっている。1階のテラスはバーベキュー大会、日光浴、ユニット間の利用者交流など多目的に使用されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂席の他、台所横や廊下、和室の前などに椅子を置き1階にはテラスにベンチを置いていて天気の良い日に気の合った者同士、2階の入居者様との交流など木々を眺めながら外気浴をして会話を楽しんでいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様に伝え、本人のなじみの物をお持ちいただくように協力お願いしている。なじみの物がある事で居心地がよく安心できる環境となるように配慮している。	居室には、家族の写真、ダンス、鏡台、ぬいぐるみ、イスなどが持ち込まれ、その人らしい居心地の良い空間となっている。ベットからの落下防止のため床にマットレスを敷いて就寝する利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な物は側には置かないように配慮している。（台所などの洗剤や包丁など）食器なども割れやすいものは取り除き手伝わってもらっている。		



目標達成計画

事業所名 ニチイケアセンター 御園

作成日 令和元年12月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	8	終末ケアの実施について経験のない新人職員や経験の少ない職員が不安に思う事が多い。	新人職員や終末ケアの経験の少ない職員が不安にならずに提携医や訪問看護との連携により終末ケアの対応ができる	研修を実施し、これまでホームで実施してきた終末ケアの具体的事例を学び、今後活かせるようにする。	令和2年1月 ～ 令和2年6月
2		防災訓練について地域住民の協力の下実施した事はあったが入居者様の重度化により一緒に実施する事が困難になっている。	地域住民の方の参加協力の下で防災訓練が実施できる。	運営推進会議等を通じ地域住民の参加・協力の下、防災訓練が実施できる。	令和2年3月 ～ 令和2年10月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。